



総本山身延山久遠寺の五重塔落慶法要に
参列する身延別院の檀信徒の皆さん

形
満

復刊第六号

2009年8月

身延別院発行

〒103-0001

東京都中央区

日本橋小伝馬町3-2

Tel 03-3661-3996

Fax 03-3663-2766

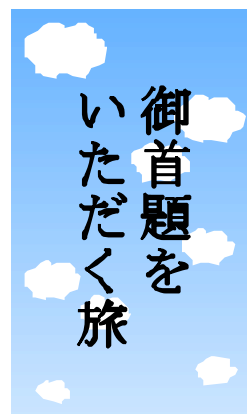
身延山五重塔落慶法要に参列



山梨県身延町の総本山身延山久遠寺で百三十余年ぶりに復元建立が進められてきた五重塔が完成し、この五月十三日から十七日までの五日間にわたって盛大な落成慶讃大法要が営まれました。身延別院からは五月十五日、檀信徒四十四人がこの落慶法要に参列しました。

久遠寺の五重塔は江戸時代初期の元和五年(一六一九年)と幕末の万延元年(一八六〇年)の二度、建立されていますが、ともに焼失しました。五重塔の復元は長年の悲願でした。身延別院の先代で、久遠寺九十一世法主妙道院日光上人が平成十六年に五重塔の復元建立を発願されました。同年、身延山五重塔建立奉賛会が組織され、最初に建立された元和の塔を再現する事業が伝統的工法と最新の建築技術の粋を結集して進められてきました。

身延別院の檀信徒の一行は落慶法要の当日、午前七時に小伝馬町をバスで出発しました。さわやかな青空のもと、バスは中央自動車道を西に進み、甲府南インターからは一般道を南下し、午前十時半過ぎには久遠寺に到着しました。完成した五重塔の下には落慶法要の参列者用に大きなテントが張られ、身延別院の檀信徒は法要の舞台に最も近い席に案内されました。法要は、内野日総法主猥下を導師に厳修されました。内野法主猥下は奉告文の中で五重塔復元建立に至るまでの来歴を述べ、「殊に先代法主・妙道院日光上人に謹んで報告し、報恩の誠を捧げるものなり」と感謝の念を表しました。最後に謝辞に立った井上日修身延山総務が「五重塔はお題目を全世界に発信・伝播するシンボルとなるもの」と宣言し、式典を終えました。(平山)



第六回 千葉県多古町・浄妙寺

鑑真和尚の開創

今回は千葉県多古町にある法性山浄妙寺というお寺へ案内しましょう。多古町というの



狭い坂道を下った右手に立派な山門が現れました

は成田市の東側に位置する人口一万六千人余りの田園風景が広がる町です。「多古米」と呼ばれるおいしいお米がとれることでも知られています。私は、法華霊場千か寺まいりを続けていて、以前から多古町に注目してきました。そんなに広くない町内に、四十五のお寺があり、このうち三十一か寺が日蓮宗のお寺なのです。「日蓮宗王国」とも呼ばれているのです。乗用車で駆け巡れば、一日でたくさんのお寺をいただくことができると考えました。自宅のある市川市から、二時間ほどで多古町に到着しました。

ところが、です。地図にお寺のある場所を書き込み、次々と訪ねていったのですが、多くのお寺は幹線道路から外れたところであり、なかなか見つかりません。しかも脇道は車一台がやっと通れるほどの狭い道ばかり。

「この先に、きつとお寺はあるはず」と思っ
て進んだものの、行き止まりだったり、民家の庭先に出してしまったり。さらに、目的のお寺によつやく到着できたとしても、住職の住んでいないお寺(法事などがあるときだけ住職が戻ってくるお寺)だったり。

それだけに、住職に出会うことができ、
「遠くから、よくぞご参拝されました。道中たいへんだったでしょう」などとねぎらいの言葉をかけられたときは、涙があふれそうになりました。

浄妙寺はまさにそんなお寺でした。天平宝



子年間(七五七―七六五年)、鑑真和尚によつて開創されたという、ものすごく古いお寺です。中山法華経寺三世の日祐上人によつて、律宗より改宗されたと伝えられています。

「多古町はお寺の数は多いけど、一軒のお寺の檀家数が少ないため、一人の住職がお寺を兼務していることが多いのです。どのお寺にも歴史があり、その歴史を語り継ぐためにも、兼務というかたちでそれぞれの住職ががんばっているのです」。浄妙寺の住職はそんな話をしてくれました。

一日でたくさんのお寺をいただく私の目算は外れましたが、多古町のお寺の事情を知ることができました。

(平山徹・新聞記者)

緑あふれる総武霊園

昭和四十七年の開園

身延別院とは切っても切れない関係にある総武霊園。今回の特集では緑あふれる総武霊園に皆さんをご案内しましょう。

総武霊園は千葉県市川市の郊外、田園風景の中に広がる大規模な民間霊園です。身延別院が先代



一万二千坪の広大な霊園

日光上人の時、一九七二年(昭和四十七年)七月、市川市菅霊園に隣接する五千三百坪の土地に宗派不問の霊園として開園しました。まずは身延別院の初代住職、藤井日静上人の御分骨墓所(写真下/右)と定め、周辺を公園墓地にしていきましました。現在は一万二千坪を有し、六千七百の墓が建ち並びます。開園以来三十七年が経過する中で、空きスペースは残りわずかとなっています。

一方、跡継ぎがない人でも購入することができ、お参りする親類・縁者がいなくなってもお寺が続く限り供養を続ける墓・永代供養墓が注目されています。総武霊園でも、この永代供養墓を設置する計画が進められています。



総武霊園のスタッフ



総武会館



総武会館二階のスペース

霊園の入り口に建っているのは総武会館です。一階入り口左手の管理事務所には所長以下五人のスタッフが、外回りには六人が交代で詰め、霊園の維持管理に努めています。一階奥には座敷があり、ふだんはお墓参りに訪れた皆さんのお休みどころとなっています。また二階は、お寺の本堂のようなスペースになっており、法事などに活用されています。日蓮宗はもちろん、各宗派の法事にも対応できるように工夫されているのが特徴です。

市川霊園との境界には斜面林が豊かな緑を作り出し、周辺には四季折々の草花であふれています。ぜひ立ち寄ってみてください。



着々と実績！青年会



区のボランティア団体に正式登録

身延別院青年会が今年六月、中央区社会福祉協議会の中央区ボランティア区民活動センターにボランティア団体として登録されました。ボランティア団体として登録されると、年間十万円を限度に区から活動費が助成されます。

区民活動センターに登録されているボランティア団体は四十八ありますが、身延別院青年会のように「子育て支援」を主な活動内容として掲げている団体は青年会を含め二団体です。

キッズカフェ地下ホールで賑やかに

身延別院青年会は六月二十八日、本堂地下ホールで「キッズカフェ」を開きました。子育て中の若いお母さんたちの交流の場になればと開催したもので、今回が二回目です。「街の喫茶店では、小さな子ども連れだと、子どもが騒いでしまつて、なかなか入りにくい」こんな声が多く聞かれることから、青年会がお寺を開放して取り組んでいるものです。当日は十五組の親子が訪れ、青年会会員が前日から用意した手作りクッキーや焼き菓子、杏仁豆腐などを味わっていました。

本堂地下ホールで開かれたキッズカフェ。お父さんもお母さんも子供たちと楽しいひとときを過ごしました。



フリーマーケットに出店

売上げ ¥52,600



身延別院青年会が四月十二日、東京都江戸川区の大島小松川公園で開かれたフリーマーケットに出店しました。「東京リサイクル運動市民の会」が主催した大規模なフリーマーケットで、青年会として初めて参加しました。身延別院の檀信徒の皆さんからご寄付いただいた品々を、十四人の会員が手分けして会場のブースに並べ、販売にあたりました。

当日は天気にも恵まれ、午前八時半から午後四時までの間に、身延別院青年会のブースにも多くのお客さんが訪れました。洗剤やタオル、シャツなど新品の消耗品に人気があつりました。一日の売り上げは五万二千六百円で、身延別院青年会の活動費に充てます。品物のご寄付をいただいた檀信徒の皆様、本当にありがとうございました。

前回の「願満」締め切り以降でフリーマーケットにご協力いただいたのは、以下の皆さんです。橋本國孝、黒石鈴子、埴多賢子、足利洋子、辻野幸子、三木静子、金井祐子、染谷葉子（敬称略）。



心に刻んだ五重塔

一面でお伝えしましたように身延別院の檀信徒の一行は五月十五日、総本山身延山久遠寺の五重塔落慶法要に合わせ、同寺を団体参拝しました。法要の後、一行は客殿で昼食を取り、その後、祖師堂で御開帳を受け、御真骨堂を参拝しました。駐車場から本堂の脇に通じる斜行エレベーターも完成し、快適な乗り心地でした。



御開帳を受けた後、祖師堂で記念撮影をしました



春季彼岸会法要に五十人

身延別院の春季彼岸会大法要が、三月二十三日午後一時から、本堂で行われました。檀信徒約五十人が本堂に集い、全員でお経をあげ、ご先祖をはじめ、ご縁のあつた方々を供養しました。

お釈迦様の誕生を祝う

身延別院で四月八日、花祭り(灌仏会)が行われました。花祭りはお釈迦さまの誕生を祝う恒例の行事です。今年も本堂の入り口には、キク、ラン、カーネーションなどの花で作った御堂と誕生仏(お釈迦さま)が安置されました。お寺を訪れた人はひしゃくで誕生仏に甘茶を灌いでお参りしていました。

久遠寺での滞在時間は短いものでしたが、檀信徒の一人一人が五重塔の雄姿を心に刻むなど、得るものは多かったです。参拝を済ませた身延別院檀信徒の皆さん



七夕で境内に設置された笹竹

七夕で短冊に願いこめ

身延別院では七月七日、七夕祈願を行いました。平成十八年から始めた行事で、今年は五日から本堂前に笹竹が設置されました。竹笹には「勉強ができますように」「健康でありますように」など、様々な願い事のかかれた短冊がたくさんつるされました。お寺の前を通りかかった人の中には、思わず足を止めて笹飾りに見入る姿も見られました。



施餓鬼大法要に五十人

身延別院の孟蘭盆会施餓鬼大法要が、七月十六日午後一時から、本堂で営われました。毎年、お盆(孟蘭盆会)の送り火の日に行っている恒例の行事です。今年は檀信徒約五十人が本堂に集い、全員で提婆達多品、お自我偈、お題目を唱え、ご先祖をはじめ、ご縁のあつた方々を供養しました。



厳粛に行われた施餓鬼大法要

次男の寛文君が僧道林で修行

身延別院の藤井住職の次男、寛文(ひろぶみ)君(二十一歳、早稲田大学四年生)が僧侶の道に進むことを決意し、千葉県鴨川市の日蓮



宗大本山、清澄寺・僧道林に六月二日から六日まで入林しました。僧道林は、お経の読み方やあいさつの作法など僧侶になるための基礎を学びます。僧道林を修了しないと次のステップに進めません。今回僧道林に入ったのは寛文君をはじめ二十四人。五日間にわたって研修を受けた後、二十四人を代表して寛文君が謝辞を述べました。

今年もお稚児さん募集

身延別院では十一月三日に行われるお会式で、今年もお稚児さん行列を予定しております。行列に参加されるお稚児さんを募集します。お稚児さん行列は、檀信徒の皆さんはもちろん、地域の皆様にもお会式に親しんでもらうと平成十九年に復活させました。昨年、一年と小伝馬町界隈を約八百メートルほど、お題目と団扇太鼓の音に合わせて練り歩きました。お稚児さんを囲んでの記念撮影も行われ、「とてもよい記念になった」と好評をいただいております。どうぞふるってご参加ください。

また、お会式で本堂の内外に飾り付ける花の製作を十月十九、二十日に行います。都合のつく日、都合のつく時間がかまいません。一時間でも、二時間でも、お手伝いいただける方、どうぞよろしく願います。

今後の予定

- 九月 一日(火) 願満祖師終日お開帳
- 十六日(水) 大黒天祭礼 午後二時より
- 二十日(日) ～ 二十六日(土) 秋季彼岸会
- 二十六日(土) 彼岸会施餓鬼法要
午後一時より
- 十月 一日(木) 願満祖師終日お開帳
- 十九日(月)・二十日(火) お会式花づく
- り、青年会べつたら市出店
- 十一月一日(日) 願満祖師終日お開帳
- 三日(火) 宗祖報恩会式
- 十五日(日) 大黒天祭礼 午後二時より
- (十三日講は九月～十一月までお休みです)

編集後記

先代藤井日光法主が発願した身延山の五重塔が完成。落慶式団参で大いにありがたかったのが斜行式エレベーター。これまで肢の悪い方は難儀をしましたが、これで安心です。

身延別院青年会の活動として、今号はフリーマーケットとキッズ・カフェの活動の様子をご紹介します。お知り合いの青年男女にぜひ入会をお勧め下さい。ところで、フリーマーケットの「フリー」の意味をご存じでした? フリーは「free」で「ノミ」のことなんです。まさに「ノミの市」の直訳なんですね。気づかなかった。(潮)